

Reading バトン 教員から筑波大生への message

第3走者 吉武 博通 大学研究センター長



吉武 博通 大学研究センター長からの message

第3走者

PICK UP!

希望のつくり方

玄田有史著
岩波書店 [2010.10]
ISBN 9784004312703
所蔵館：中央 / 体芸
医学 / 図情
分類 081-I95-R1270



労働経済学を専門とする東京大学の玄田有史教授は、希望とは何かといった希望にまつわる疑問を明らかにしようと「希望の社会科学」という研究を立ち上げ、その研究成果を2009年に『希望学』全4巻（東京大学出版会）にまとめました。今回推薦する本はそのエッセンスをコンパクトに分かり易くまとめたものです。玄田先生が、希望学の研究フィールドに選んだのが岩手県釜石市。私も社員時代に釜石製鉄所で人事を担当し、幾たびの苦難を乗り越えながら希望を持って生きてきた人々の姿に接してきました。授業でもこの本を薦めています。希望を成り立たせる4つの柱は何か？玄田先生が導き出した答えは本の中で確かめてみて下さい。



次は、中山伸一附属図書館長です。

これまでのおさらい

2013年もピッチをあげて走り続けます。ご期待ください！

Reading バトンとは？



本学の先生同士のネットワークをお借りして、様々な先生から筑波大生にお薦めの図書をご紹介いただくブックレビューリレーです。

研究者として、教育者として
学生にお勧めの本
思い出の本
研究分野の紹介
学生に伝えたいこと

教員

ブックレビュー

学問のプロフェッショナルである教員のブックレビューが学生への“バトン”となり、何かを見つけて走り出すきっかけになればと願っています。

発見 ひらめき 創造
スキルアップ 情報
ノウハウ 気づき

学生



波多野 澄雄 前附属図書館長からの message

第2走者



PICK UP!

歴史を学ぶということ

入江昭 著
講談社 [2005.10]
ISBN 4061498118
所蔵館：中央
分類 289-I64



この本は、高校を卒業後、すぐにアメリカに留学され、半世紀を歴史の教育と研究に捧げた入江昭教授の自伝風の歴史の入門書です。主に新入生向けに開講している全学共通科目「大学と学問」と題するオムニバス講座の教材の一つです。

普通の入門書とはちがって、自分の体験に寄り添いながら、歴史を学ぶということは何を意味するのか、現在の世界を理解するにあたって、なぜ歴史が重要なのか、といったことを考えようというものです。例えば、自分の国の歴史をどのように理解し、どのように後の世代に伝えて行くべきか、といった問題について、私たちはどうしても日本人の立場で過去を正当化しがちです。その例が歴史教科書です。日本の教科書は、他国から見ると日本の過去の戦争や外交を正当化しているように見え、しばしば批判され、国際問題となることがあります。

この問題をどのように考えるべきなのでしょう。歴史教科書は、その国の歴史や伝統に基づくもので、歴史を国際化したり、他国と共有したりすることはあり得ないという立場も当然あります。入江教授は、それはそれで一つの見方であるが、「一国の歴史は他国との歴史との関連においてこそはじめて意味をもってくるのだ、という考えも尊重されなければならない」と述べています。なぜなら、現代世界が人や情報や文化・文明が国境を超えて激しく移動し、私たちの生活に影響を及ぼし、いわゆるグローバル化しているとするれば、一つの国の歴史も他国との関係や世界とのつながりのなかで、その発展や特徴を考えることの方が意味があり、重要であるという見方も成り立つからです。つまり、一人一人が現代の世界をどう理解するかによって、歴史の見方も違ってくるというわけです。

本書の世界を見る眼は、悲観的であるより楽観的で、現実的であるより理想的ですが、私たちはどのような世界に生きているの、どこに向かおうとしているのか、世界の動きや過去をどのように理解すればよいのか、といったことを考える多くのヒントが含まれています。

2013/02/01 発行



山田 信博 学長 からの message

第1走者



PICK UP!

ハイ・コンセプト 「新しいこと」を考え出す人の時代

ダニエル・ピンク 著
大前研一 訳
三笠書房 [2006.5]
ISBN 4837956661
所蔵館：中央図書館
分類 159-P66



アインシュタインは科学について、想像は知識より重要である。知識には限界がある。想像力は世界を包み込むと述べています。私たちはこれからどのように未来を想像して (IMAGINE THE FUTURE.)、新しいことに挑戦し、豊かな成熟社会を創るのでしょうか。未知の世界だからこそ、多くの新しいチャンスが出現し、そこでは私たちの真価も問われることになるでしょう。本書はこれからの成熟社会で進むべき道を右脳と左脳の違いを例にしながら、ハイコンセプトとハイタッチの2つの言葉に集約して、わかりやすく明快に記述しています。皆さんには世界の抱える課題の解決に向けて、単なる知識の学習を越えて、ハイコンセプトを意識して新しい付加価値を生み出すような想像力を発揮してもらいたいと願っています。未来がどうなるか、どうあるべきか、大胆に思いをめぐらして、新時代を開拓し、いろいろな機会にハイタッチしたいものです。